

新建あいち

2026.10月号

新建愛知支部事務局：株式会社 宮工務店 気付

〒486-0904 春日井市宮町 1-11-25

URL <http://nu-ae.com> ホームページ (2022 年 4 月～)

TEL 0568-34-7775 FAX 0568-34-7797

■2026 建築とまちづくりセミナー in 埼玉

埼玉から愛を込めて「建築とまち」の歴史と未来を考える

10月3日(土)～4日(日) 埼玉会館(前川國男設計) 2階ラウンジ(定員90名)

さいたま市浦和区高砂3-1-4

JR「浦和駅」西口から徒歩6分

10月3日(土)

<プレ企画>

①10:00～11:20 浦和駅周辺まち歩きコース

【集合】浦和駅改札正面

案内人：古里 実ほか(定員15名申込順)

②11:30～12:00 埼玉会館見学コース

【集合】埼玉会館1階玄関前

案内人：同上(定員20名申込順)

<講座> 12:30 開場・受付 13:00 開校式

13:20 第一講座「参加型で進めた『さいたま百景』の選定と書籍づくり」

三浦匡史(さいたま百景選定市民委員会編集委員)

14:15 第二講座「埼玉の『絹の道』をめぐる」 藤井美登利(NPO川越きもの散歩代表)

15:15 第三講座「ぎょうだ足袋蔵ネットワークの取り組み」 朽木 宏(クチキ建築設計事務所)

16:10 第四講座「21世紀映画のまち＝深谷シネマ『市民活劇』の四半世紀」

小林 真(NPO市民シアター・エフ理事長)

17:10 第五講座1「『ほしい暮らしは私たちでつくる』～脱再開発の公民連携まちづくりの現場から」

高橋浩志郎(草加市職員)

<懇親会> 18:30～20:30 懇親会(埼玉会館内 ビストロやま)

10月4日(日)

<講座> 9:00 開場、ガイダンス

9:05 第六講座 浦和の「建築とまち」の魅力と課題 古里 実(都市づくりNPOさいたま理事)

10:00 第七講座「再開発の仕組みと課題」 岩見良太郎(埼玉大学名誉教授)

11:00 トークセッション「再開発の課題」 岩見良太郎／古里 実

11:30～11:45 閉校式

<4日 エクスカーション(まち歩き)> 13:00～16:00 各コース定員15名(申込順)

コースA：中浦和ヒアシンズハウス、武蔵浦和駅周辺タワマン群コース

コースB：大宮駅東口、氷川神社参道、大宮公園、盆栽村コース

コースC：旧日光街道草加宿リノベーションまちづくりコース

コースD：川越旧織物市場、りそなコエドテラス、蔵造のまちめぐりコース

※ 詳細は、新建ホームページをご覧ください。

申し込みは、【申込フォーム】よりお願いします。 <https://nu-ae.com/261003-saitama/>



■ 避難所と生活資本

～居住福祉と生活資本の構築(189)

岡本 祥浩

2026年9月8日(火)、名古屋市内で時間降水量が統計記録上最大の100mmを超えた。名古屋市営地下鉄や名鉄など市内及び周辺の公共交通機関が停止した。日常業務の終了時に重なったため多くの帰宅困難者が生れた。名古屋市は、市内の主なターミナルの近くに退避施設を設けたが、行き場を失ってぐったりした方も少なくなかったと思う。翌朝、名古屋市内で200台の車が動けなかったことが分った。改めて我々の災害時に避難する環境を「熊本地震2026」を例に考えたい。

発災と被災地の環境…停電、断水、酷暑

2026年7月28日に最大震度7、マグニチュード7を超える熊本地震が発生した。電気、ガス、上下水道、給油所などのライフラインが止まった。38名が死亡し、全壊2,249棟、半壊5,535棟という住家被害があった。医療施設は熊本県内で92施設が被災し、被害を受けた高齢者関係の施設は1,005施設、障害児者施設は455施設に及んだ。連日、35度から40度の猛暑、酷暑日が続き、居場所を失う被災者が多かった。

避難場所の選択

避難所の環境は過酷だ。暑さとともに雑魚寝でプライバシーが確保されず、固く冷たい床では高齢や障害を抱えている者には居づらい。家財道具などの見守り、病気などで避難所では過ごせない人々もいる。被災地域内の選択肢を検討した結果、余震の恐怖や暑さで車中泊を選ばざるを得なかった方も多かったようだ。

内閣府の『避難所運営等避難生活支援のためのガイドライン(チェックリスト)』(2024年12月改定)では「避難所は住まいを失ったり、地域での生活を失ったりした被災者の拠り所となるとともに在宅被災者の支援の拠点」ととらえている。熊本地震2026では避難所が最大506ヵ所開設され、9,931人が過ごされた。

避難所環境の認識と改善しない環境

東日本大震災や2024年の能登半島地震を通して避難所環境の過酷さやスフィア基準の重要性について十分に意識されるようになり、先のガイドラインにもその事が明記されている。2016年の熊本地震の死亡者数は273名だが、その8割は災害関連死と言われる。災害関連死の防止は「熊本地震2026」の大きな目標となっている。

社会の意識も避難所のマニュアルも改善してきたが、避難所環境は関東大震災時(1923)と変わらない。文部科学省の「避難所となる公立学校施設の防災機能に関する調査」(2024.11.)によると、91.7%の学校が避難所に指定されている。愛知県の「避難生活支援マニュアル」(2025年11月改定)によると、施設の利用は「長期受け入れとなる場合も考え、施設の本来業務を再開する際に支障のない場所から優先的に指定する」とされている。そして「体育館」→「特別教室」→「教室」という利用優先順序が例示されている。別の調査では、体育館等の冷房設置率は約20%とされている。施設の設置趣旨やマニュアルを尊重すると被災者の避難に相応しい環境の実現は困難に思う。「人(被災者)の命と健康」を最優先とする考え方やマニュアルに変えられないものだろうか。9月8日の豪雨で名古屋市内に開設された退避施設の環境が二重写しになるのは私だけだろうか。

(中京大学教授、新建会員)

歴史から見た町名 (上)

十六町 (そろちよう)

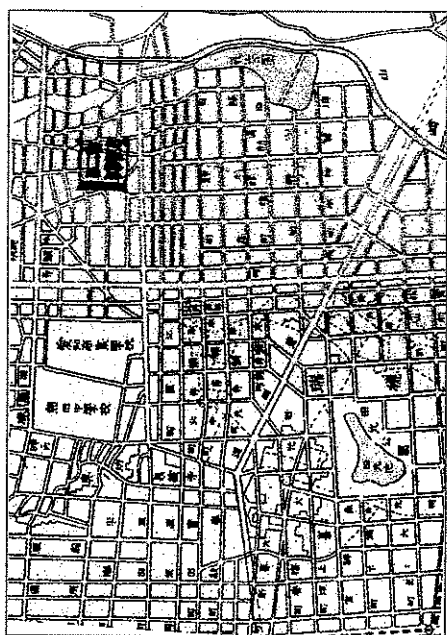
(瑞穂区)

天保12年(1841)に描かれ、尾張藩に提出したとされる、本願寺村村絵図には「字十六之下」と書かれた字(あざ)名が見られます。この字名が、その後の十六町の町名となりました。もともと「ソロ」というのはソロソロに通じ、静かで緩やかな状態、すなわち、「平坦地、緩傾斜地」の地形につけられた地名をいいます。このことは村絵図を見ると、ちょうどこの辺りは、台地状の土地の中でも、浸食谷が広がっている所で、水が得られやすく水田には適地であったことから知ることができます。江戸時代中期に書かれた地理書「尾張徇行記(じゅんこうき)」によれば、「竹木が茂り村高に対して戸数が多く、耕作者は足りていたが多くの小百姓ばかりで、土地は高低があり、田は山畠の間の低い所にあつて天気に頼っていたが、雨が降れば水持ちがよく、日照りの害はなかった」と記されています。他に十六(ソロ)の云われとして、近世領主のおこなった年貢高を定めるための農地等の調査(検地)をおこなった際、この土地は24等級のうち、十六等級であったとされたことによっても云われていますが、近世の村絵図にある字名から、現在の町名が生まれたと考えるのが自然であると思われます。

「十六之下」は愛知郡瑞穂村に所属していましたが、明治39年の町村合併によって呼続町となり、大正10年に南区に編入、これ以後、昭和初期の耕地整理事業がすすみ、昭和19年に昭和区瑞穂町、昭和20年に瑞穂区十六町が生まれました。

今では静かな住宅地になっており、西南端には村上町おどり山古墳から移された御霊石を祀る真好天(しんこうてん)神社があります。

今では静かな住宅地になっており、西南端には村上町おどり山古墳から移された御霊石を祀る真好天(しんこうてん)神社があります。



耕地整理後の昭和12年に作られた大名古屋全図より、図の右・中央に十六町と記されている。



真好天神社・本殿

■新建愛知支部 2026 年 8 月 支部幹事会だより

8 月 19 日（水）19：00～21：00（リアル＆オンライン）

参加者／入谷、奥野、中森、福田、甫立、壬生

- (1) 愛知サマーセミナー 7/18（土）同朋高校で、無事開催し、6 名（学生 5 名）参加されました。
 - (2) 三重県大紀町の新庁舎建設の相談が寄せられて、幹事会で意見交換をし、回答をしました。
 - (3) 建築とまちづくり in 埼玉（最寄り駅は浦和駅）が、10/3～10/4 での開催が決まりました。
 - (4) 建築基準法の改正などについての、仕事での経験や意見交流、勉強会を開催しようと思います。
 - (5) 皆さまから、企画・見学会案を募集します。楽しく勉強と交流のできる企画をつくりませんか？
- 今後の幹事会は、9/16（水）、10/21（水）、11/18（水）、12 月 16 日（水）午後 7 時で日程の確認をしました。



■ 東京での全国幹事会に参加してきました

9 月 12、13 日に東京板橋区で開催をされた全国幹事会に中森さんと甫立で参加をしてきました。コロナ明けの初めてのリアル開催でした。北海道から福岡までの総勢 32 名でした。開会挨拶を中島明子さん、頻発をする大規模災害報告で、熊本地震、千葉豪雨が報告されました。埼玉での建まちセミナーの募集呼び掛け、全国の組織財政で会員が 581 名とのことでした。この 20 年で、524 名の減。読者も 300～134 へ減でした。正味財産は、1500 万円程ありますが、単年度収支では、会議をリアル開催することに赤字になることも報告されました。今後の全国大会や常任幹事会、全国幹事会をどの様にしていくのかの議論もありました。初の試みとして、「ワールドカフェ」を 6 つのブロック（4～6 名）に分けて行いました。20 分ごとにメンバーを入れ替えて、3 度回転をして、最初のグループに戻りました。結論を出さない気軽な自由な意見交換ができました。新しい常任幹事、全国幹事や初めましての方もいて、自己紹介もあり、自分の仕事や支部での活動や新建の財政、新建の魅力などを話し合いました。会議の後の夜は、恒例の懇親会をして、そこでも様々な交流ができました。僕は、隅で新建賞の会議をしながらでした（笑）。

13 日の午前中は、朝から参加している支部の活動報告です。定期的に集まっている支部とそうでない支部の差があったり、若い方が入会をされているが他の方がベテランの高齢の方が多かったりと、様々なことが分かりました。その後お昼休憩を経て、全国研究集会の開催地が静岡に決まり、分科会構成などが話し合われました。初めて、会員外の参加を募集することとなった新建賞のこと、子供環境・環境と建築・マンションサポート研究会の報告もありました。建まち編集委員では編集局員の募集をしたり、支部ブロック委員会では、支部間のサポートの話を提案したり、政策委員会では、様々のことについての報告、WEB 委員会では、新建外への発信への強化を検討したり、叢書委員会では、出版業界の難しさの現状を聞いたり、他団体との協働では、自治労連、災対連への継続的な活動の後継者問題の人選などを報告されました。また、今回の全国幹事会では、声明を発表することとなり、「相次ぐ自然災害から被災者の命と暮らしを守り、生活・生業再建への公的支援の抜本的拡充を求める」声明が提起され、承認がされました。閉会の挨拶では、乾康代表幹事より挨拶がありました。乾さんは、ワールドカフェの時の発言で、大学を退官した後は、何物でもない自分の名刺には、「新建会員」を書いている。名刺を渡すと必ず、「新建とは？」の会話になる。少しずつでも新建を知ってもらえる努力をしていると。その言葉を聞いて、自分の身の回りにいる建築関係者だけではなく全ての人に、「新建」を知ってもらうようにするにはどうしたらよいのかを考えてみようと思いました。また、リアル開催での参加の煩わしさも下準備も大変だと思いましたが、リアルで全国の会員と生の声を聞けるフラットな団体は、「新建」でしかないと、改めて、感じた全国幹事会でした。（報告：甫立）